

# 人 類 の 夢

水素エネルギーシステム研究会 ( HESS )

会 長 赤 松 秀 雄

本会は1973年7月の発足以来近く3周年を迎えようとしております。この間神田英蔵博士が初代会長として創設期の労をとられ、本会の事業の基礎もHESSの名とともに定着をみるに至りました。このたび神田博士の後をうけてわたくしが会長の役をつとめることになりました。もとより浅学非才の者でありますから、もっぱら会員のみな様の御鞭撻に頼るほかはありません。

HESSの会員はいろいろの分野の方々であります。それぞれの立場から、いずれも水素または水素エネルギー・システムに強い関心を持っておられます。わたくしもまたその一人であります。

石炭や石油に頼っていた限りでは、エネルギーと燃料とは同じことを意味しておりました。しかるに今日われわれは新しいエネルギーの原理を求める時代に入りました。それが如何なるエネルギー源にせよ、エネルギーを輸送し、蓄え、必要に応じて必要な量に分割し使用するためには、何らかの化学物質すなわち燃料のかたちに変えねばなりません。この目的に沿うものの一つとして水素は次代の文明を担う燃料であります。

水を分解して水素をつくり、水素を燃やして再び水に戻す。この物質循環の原理を太陽のエネルギーによって実現させることは、平和と平等を念願する人類の夢に通ずるものであります。これは極めて単純な原理であります。現在は夢とよばねばなりません。わたくしの学生時代——昭和のはじめ——に古くから化学に引き継がれた夢のことを教えられました。

炭素をダイヤモンドに変えることと燃料電池であります。またその当時新しく生まれた夢としては核エネルギーの解放がありました。今日では、これらはみな実現しております。水素に関する夢は、それを夢とよぶには余りに切実で緊迫した人類の希望でありましょう。それは夢とよぶことを許さない現実の問題として現代の科学技術に挑戦しております。

水素エネルギー・システムの実現のためには多くの技術の集積にまたねばならず、経済的価値観の変換にもつながるものであり、社会におよぼす影響も大きく、なお多くの歳月を要することと思えます。HESSはこの問題の重要性を社会に訴え、科学者、技術者の興味を喚起し、工業界を鼓舞し、国内のみでなく国際的にも情報交換の中核となり、この壮大なエネルギー・システムの実現のために貢献することを念願します。会員諸賢とともに本会の発展につくす所存であります。